

連

振り返ろう! クラブのリスクマネジメント! ③

載

一般社団法人NICE

今後発生が予測される南海トラフ巨大地震に備えて、災害講習会や避難訓練など、総合型クラブの運営において考えられる様々なリスクに対するマネジメントを実践している「NICE」。まずは現場レベルの小さな習慣づけから始めた取り組みを紹介します。

クラブで行ったリスクマネジメントの初めの一歩

鳴門市は、瀬戸内海、鳴門海峡、そして太平洋に面した海浜地方都市のため、今後予測されている南海トラフ巨大地震発生時には、必ず大津波が押し寄せてきます。そこで、災害講習会や避難訓練だけでなく、「地震・津波は、必ずやってくる」ととらえ、常日頃からの避難経路の確認や心構え、特に高齢者の仲間どうしの声かけの習慣づけが必要とクラブマネジャーは考えています。そのためまずは現場レベルでできることとして、教室やイベント等の会場ごとの担当者による避難目標物の確認の習慣づけから始めました。



鳴門市は大津波がくると一面水没の可能性がある

リスクマネジメントの実践と心構え

●「今、津波がきたらどこへ逃げるか」を常に問いかけ

津波が到達するまでの時間は、鳴門市の場合、地震発生から30分～40分後と予測されています。クラブハウスはショッピングセンターの4階にあり、体育館施設も3階にあるため、建物の倒壊がない限りその場で避難することとしています。また、海拔の低い公民館や民間スタジオ、体育館・小学校施設も使用しているため、それらの場所では、最寄りの高い建物の位置とそこへの経路をクラブマネジャーが現場を訪れる際、担当現場スタッフに「今、津波が起きたらどこへ逃げる？」と、繰り返し確認しています。

さらに、具体的に避難経路をイメージし、歩いてみる取り組みも行っています。毎月開催しているノルディックウォーキングは、鳴門市の風物詩となっている無料の渡船を使って海岸線沿いの道を歩いていますが、周辺の景色を堪能しながらも、避難できる高い建物を確認し、そのことを会話にも織り交ぜています。ウォーキングルートには避難先として想定される小さな山の上の公園や絶景ビューポイントを入れ、実際に自分の足で登ると時間はどれくらいかかるか、疲労度はどんな感じが、山頂へアプローチできる他のルートの確認と、津波発生時に役立つ実践をプログラムの中で体験してもらっています。

●気持ちに余裕があれば深まるリスクマネジメント

会場準備スタッフは、余裕を持って早めに会場に出向き、普段と違ったことがないかなど、会場の状況を事前に把握することも習慣づけるようにしています。例えば、会場周辺で工事などによる通行止めなどを発見した場合、現場の担当スタッフに電話で連絡しておくことで、津波発生時の避難経路のルートのイメージを変更するだけでなく、車両事故なども回避するのに役立ちます。また、指導員などから「遅れそうです」と連絡があった時には「遅れていいので安全運転で来てください」と、事故回避への一言を添えます。

さらに、介護予防運動事業やコンディショニング系プログラムの夏の暑い時期の事前空調や冬の寒い時期の加湿は、プログラムの快適性にも大きく影響します。高齢者の参加も多いことから体調変化に留意し、水分補給の声かけも含め、現場スタッフが心がけています。余裕があれば習慣化することが、リスクマネジメントを実践する上で、最も大切にしたい心構えではないかと考えています。



海拔0mの活動会場。避難場所は常に確認



「今、津波がきたらどうする？」が、ウォーキング中の会話



小さな子どもが多いミニサッカー。避難経路は常に確認



小さな子どもたちを誘導するためにも、話をきちんと聞いてもらうことが大事



絶景ポイントは大津波時の避難場所でもある



歩きながら高い建物を確認

リスクマネジメント導入によって高まるクラブの評価

「声かけ」や、避難経路の確認を会話の中であいさつ代わりに日常的に習慣化することで、現場スタッフだけでなく、参加者全員に気づきが連鎖し、現場リスクマネジメントが向上します。さらに、その積み重ねにより、クラブ活動以外へも連鎖します。「津波発生時の避難先に裏山へすぐに逃げられるよう毎日散歩をしよう」と、ライフスタイルに防災を踏まえた運動習慣を取り入れてもらったり、「お水飲みよ（飲んでね）」と、参加者同士で声かけをしてもらい、災害や障害に強い市民力が少しずつ育っているように感じます。このような地道なリスクマネジメントへの姿勢は、対外的にもクラブの公共性の高さへの評価につながると考えています。

スポーツの現場に根付かせるチャンス

避難経路を想定したウォーキングプログラムなどは参加者が少ないのが課題です。また、まだまだ、「ヒヤリ」「ハッとする」ことが多く、後になって振り返ってみると、いつものチェックや伝言等の確認を行っていないことも多くあります。クラブとして実践するスポーツ活動の現場を地域全体にリスクマネジメントを根付かせるチャンスと捉え、クラブ運営に関わる人々すべてが共通理念として持ち、「あったらいいなをみんなでつくろう」のクラブ理念のもと、クラブの輪を活用した高齢社会に求められる助け合い事業を現在模索中です。（徳島県クラブアドバイザー・一般社団法人NICEクラブマネジャー／神田真奈美）

クラブプロフィール

●クラブ概要

鳴門市教育委員会や徳島県広域スポーツセンターから現在のクラブマネジャーに、総合型地域スポーツクラブ設立の打診があり、平成18年、鳴門市体育振興室のはからいで、クラブの発足を呼びかけました。この声に賛同した市スポーツ推進委員、ファミリーバドミントンサークル、太極拳同好会などが加わり、2年の設立準備期間を経て、NICEを設立。鳴門の自然を活用したアウトドア活動は市外・県外からの参加も多く、有資格指導者の育成から取り組んだ介護予防運動事業「げんき工房」は、市委託事業3年目。ワンコインで参加できる質の高い有料コンディショニングプログラムとともにクラブの財政を支えています。

- 設立年月日：平成21年3月2日
- 所在地：徳島県鳴門市とその周辺
- 運営：会員数403名(平成27年1月1日現在。一見参加者は含まず)
予算規模1003万円(平成26年度)

特徴：ヨガやミニサッカーなどの定例教室や、太極拳、卓球、ソフトバレー等のサークル活動に加え、カヤック、ノルディックウォーク体験やトレイルラン大会を企画・運営。地元他団体や商工会とコラボレーションしたローカルマラソン大会運営など地元イベントサポートも大きなクラブのミッションとなっており、災害や障害を未然に予測したリスクマネジメントを地道に実践しています。

連絡先：〒772-0012 徳島県鳴門市撫養町小桑島字前浜 23 キョーエイ鳴門駅前店4階
TEL:080-3928-8679 FAX:088-603-1719
Eメール：info@nice7610.net
ホームページ：<http://nice7610.net/>